

「変化すること」

平成が幕を閉じ、次の時代を迎える歴史的な年の始まりです。皆さまには、幸せや喜びが1つでも多く積み重なり、旧年以上に充実した1年となることを、また、健康で周囲の皆さまと豊かな時間を過ごされることを、心からご祈念申し上げます。

さて、昨年の仕事始めで、私は職員に次のようなお話をしました。「市民あつての市役所ですよ。今年1年、市民に感謝し、市民が花を咲かせる土になりましょう」と。この内容は本紙まちづくり日記でもご紹介したので、ご記憶にある皆さまがいるかも知れません。この言葉「元メジャーリーガーの松井秀喜さんを育てた、山下智茂監督（星稜高校監督）の著書「心が変われば」に出てきます。本書では「花よりも花を咲かせる土になれ」とあります。

市民の毎日に寄り添い、皆さまが仙北市で暮らし続け、それぞれの人

仙北市長 門脇 光浩

生で思いおもいの花を咲かせられるよう、私たちが根になり土になって支えて行こう、そんな決意でした。でも評価は「まだまだ」です。一部ですが、職員の対応に怒りを感じたなどの電話もいただきました。本当に申し訳ありません。逆に職員が明るくて元気をもらったとお褒めの言葉もありました。そうです。「市役所が元気がなくてどうする」です。さらによい変化を感じてもらえるよう“土づくり・土育て”に励みます。

ところで、前述の山下監督著「心が変われば」には、大切な4つのメッセージがあります。

1. 心が変われば行動が変わる
2. 行動が変われば習慣が変わる
3. 習慣が変われば人格が変わる
4. 人格が変われば運命が変わる

若いうちは、変わることに抵抗はなかったけれど、年をとると変化に

ついていけない、そんなお話をよく聞きます。でも、「生きることは変化を続けること」で、「変化のない成長はない」はずです。人の身体の細胞は約37兆個で、うち1兆個は1日に入れ替わっているそうです。計算では1か月少して全身の細胞が入れ替わります。だから生きていけるのでしょう。一方で、人の考えを変えるスピードは速くありません。考えを変化させるには、知識も勇気も必要です。

古くから日本では、考えを変えることに評価が低く、心変わり是不実の始まりとされて来ました。もちろん人の幹となる信条がコロコロ変わったのでは困りますが、目標を達成するために、手法を変えることは当然です。市民の皆さまには「今年こそ〇〇を成し遂げる」と、決意を胸に秘めている方々も大勢いると思います。それが、もし初めての挑戦だったら、とにかくガムシヤラに行動するしかありません。それが、もし何度も挑戦していることだったら、心持ちを改め、アプローチを変えてみることで。

これは、行政運営にも通じる真理です。小さな国際文化都市の実現に向け、昨年はSDGs未来都市となりましたが、人の手や所得・事業財源の確保、地元事業所の育成と誘致、移住と定住の拡充、老朽施設の解体や長寿命化、福祉と医療・健康政策の推進、再災害防止、公共交通の充実、子育てと教育の充実、農林商工観光業の振興、行財政の健全化など、課題は山積みです。新・角館庁舎や総合給食センターの建築も本格化します。箱ものの整備や解体計画は他にもありますが、事業量の平準化を考えると見直しが適切です。今年は現状分析や検証など、事業の棚卸しをします。どの事業も皆さまからいただいた税金が財源です。使い方は慎重にも慎重を期し、工夫を凝らして最大効果を狙います。これまで各団体の活動を長く支援してきた補助金など、見直しや廃止となる場合もあります。ご理解をお願いします。

仙北市は変化を続けます。そして将来とも皆さまの故郷です。まちの主役は皆さまですが、その皆さまの愛情がまちを育てる力です。